

令和8年度 自ら学び 自ら考え 自ら行動する子を育てる



松林小だより



令和8年5月28日

第3号

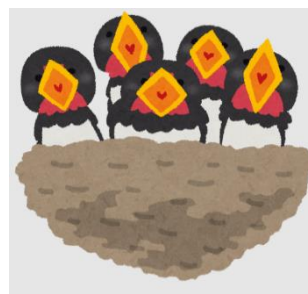
茅ヶ崎市立松林小学校 校長 下反 達二

啐啄同時(そったくどうじ)

校庭の木々の緑はいよいよその深みを増し、あじさいの花が雨に映える季節となりました。梅雨を迎える六月は、子どもたちにとって思うように外で活動できない日もありますが、その一方で、落ち着いて学習や読書に親しみ、友達との関わりをより豊かにしていくことのできる、実り多い時期でもあります。

先日、ある子が「校長先生、鳥のヒナがいるよ。」と教えてくれました。子どもたちが集まっているので行ってみますと、まだ羽も毛も少ししかない、小さな野鳥のヒナがおりました。(おそらくスズメだと思われます。)巣から落ちたのでしょうか。動くのがやっとでかなり弱っていましたが、野生のヒナを育てることはできないので、裏庭の茂みにそっと置いてやりました。5月から6月にかけては、野鳥にとって新しい命が誕生し、子育てが始まる時季です。自然界はうまくできていて、春になり、木々や若草が生長してくると、それを餌とする虫たちがたくさん生まれ、さらにその虫を餌とする野鳥のヒナはこの時期、多く誕生します。

ところで、禅の言葉に「啐啄同時(そったくどうじ)」という言葉があります。卵の中のヒナが内側から殻をつついて音を出すことを「啐」といい、親鳥が外側からそれに応じて殻をつつくことを「啄」といいます。内より発する育ちの兆しと、外からの適切な働きかけとがまさに時を同じくするとき、新たな命は殻を破り、大きく世界へ踏み出していきます。この言葉は、子育てにおいても深い示唆を与えてくれるものです。子どもたちは日々の学校生活の中で、自らの内にある力を懸命に伸ばそうとしております。初めて手を挙げて自分の考えを伝えようとするとき、苦手なことにも粘り強く挑もうとするとき、あるいは友達のために勇気をもって声をかけようとするとき、その姿には確かな成長の萌芽が表れています。そうした小さくとも尊い変化を見逃さず、好機に励まし、支え、必要に応じてそっと背中を押すことこそ、私たち大人に課せられた大切な務めであると考えます。申すまでもなく、こういった支援は早すぎても遅すぎても、その力を十分に生かすことはできません。子どもが自ら考え、試みようとする前に先回りすれば、主体的に学ぶ力ややってみようとする意欲を損なうことがあります。一方で、支えを必要としているその時機を逸すれば、不安やためらいを深めさせてしまうことにもなりかねません。だからこそ、私たちは子どもの表情やつぶやき、行動の変化に丁寧に目を凝らし、「今、この子にとって最もふさわしい関わりは何か」を問い続けながら教育にあたらなければならないと考えております。とは言え、これはとっても難しい。本校教職員は、それぞれの子どもたちに、適時に適切な教育が届くよう日々試行錯誤しながら研鑽を重ねているのであります。



<1年生を迎える会>

大きな拍手の中、6年生と1年生が手をつないで入場するととても温かい雰囲気から始まりました。途中には趣向を凝らした松林小クイズ、じゃんけんゲーム、松林恒例のジャンケン列車・・・、運営委員の進行のもと、とっても楽しい会となりました。1年生は2年生と3年生から、プレゼントをもらっていました。何をもらったのでしょうか?ともあれ、1年生が不安のないよう、楽しい学校生活が送れるよう、みんなで支えていくことを確認できるよき会でした。

<引き取り避難訓練>

昨日の引き取り避難訓練では、お忙しい中、多くの保護者の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、混乱なく安全に速やかな引き渡しを行うことができました。心より感謝申し上げます。

災害はいつ起こるかわかりません。学校では今後も子どもたちの安全を第一優先に考え、備えを怠りません。ご家庭におかれましても、この機会にぜひ、非常時の行動や避難場所について話し合ってみてください。今後とも引き続きのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。